

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマット リタイヤメント コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風 (やすらぎユニット)		
所在地	静岡県駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/zz/index.php?action_kounyo_u_detail_2016_022_kani=true&lievosvoCd=2294200908-

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業理念である。「利用者様にゆとりやすらぎを」を実行するため、なるべく時間にとらわれずゆったりと時間を過ごしていただいています。午前中の合同レクリエーションも定着し日替わりで、リズム体操・脳トレ・カラオケ・ゲーム・ボールを使った体操などで、楽しんで頂いています。また季節ごとの行事では、外出レクやボランティアさんによる企画、誕生会、遠足などを行い皆様で楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春と秋に催される「そよ風文化祭」は、常日頃のレクリエーションのゴール設定ともなり、また家族会と併せての春の文化祭では「えーこんなこともできたんですかあ」と家族の感嘆や歓びを誘い、「できちゃったんだよ」と利用者本人の有用感と満面の笑顔が膨らむ相乗効果の高い行事として育まれています。本部監査が年1回あり、細かく書面チェックがあるほか、「一人ひとり風呂のお湯は入れ替えていますか」といった厚労省の意向に準じた確認が繰り返しおこなわれています。同様に、勤務表は常勤、専従等の印が満載で、加算及び人員配置基準をクリアしているか一目でわかるようになっていてコンプライアンスへの取組み姿勢が秀逸です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ご利用者様にゆとりとやすらぎを」で、法人理念は、高齢化社会での役割を自覚して健やかな人生を支えるです。管理者と職員は理念を共有し実践に繋げるように努力しています。	掲示とホーム会議での唱和で自覚を促し、実践への道しるべとして年間と月毎の個人目標を持ち、毎月振り返りも併せておこなっています。特に理念のなかにある「寄り添い」については目線を合せての気持ちに通う関わりができていることから、管理者は手ごたえを感じています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会の回覧板をご近所に持っていき、また散歩に行くときにご近所の方に覚えていただけるように、話しかけやご挨拶をしています。	普段から畑の収穫物や果樹の実りが届いています。事業所の夏まつりでは焼きそばやたこ焼きを振舞、通りがかりの人も立ち寄って本年も50食以上でています。運営推進会議内で「今年もやるよね?」との発言がでるほど恒例となり、参加メンバーからソーメンの寄附もあります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の方に認知症を知って頂こうと勉強会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様についての活動報告やサービスの実際をお話させていただき、地域の方々からの提案やご意見をサービス向上に生かさせていただいています。	隔月開催滞りなくできています。「こんなときはどうするの?」と身近な介護の質問も挙がり、自治会長、副会長、民生委員、地域包括支援センターと慣れ親しんだ顔ぶれでのざっくばらんで忌憚ない意見交換があり、メンバーからはベンチ修繕や遊び道具の提供を日常的に受けています。	素晴らしいチームに仕上がっていることが覗えますが、新しい視点も入る様、介護相談員やボランティア訪問者にも声がけていくとなお良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者様に直接連絡を取り解らないことなど教えていただいています。事業所の情報を伝えながら協力をお願いするようにしています。	集団指導をはじめ、行政主宰の研修会にも積極的に出向いています。毎月訪れる介護相談員からは利用者一人ひとりに基づいた感想や意見が得られ、相談員が演奏するハーモニカに耳を傾けての充実した時間も設けられています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員に理解して貰える様に年に1から2回程研修を行っています。また身体拘束委員会も月に1度開催して、やむおえず身体拘束をしている方の廃止に向けて取り組んでいます。	年間研修に位置付けられ、委員会活動もあります。他利用者を精神的に脅かす症状については拘束に係る対応を余儀なくされ、家族にも相談した上で週・月のカンファレンスで代替方法を模索しています。このケースで職員も書面記録、手順に熟知することとなり財として昇華しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・ユニットリーダー・虐待防止委員会の委員は虐待が無いように常に注意を払っています。また身体拘束と同じように研修を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について外部研修などで、学んでいます。個々の方については、必要ならば支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約・改定の際はご利用者様のご家族に十分説明をし不安や疑問については、お答えし理解していただけるように、納得いくまでお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来たときには、話すように機会を設けています。また月に1度のホーム便りを送付しており、そこには、ご利用者様の様子を一人ずつ担当者が記入して伝えております。	毎日のように本人の顔を見に来る家族もいますが、県外在住家族もいて、面会は総体としては多いとは言えません。事業所では、本人の暮らしぶりやADL状態がわかるような写真と居室担当のメッセージを添えた「中野新田ホーム便り」を毎月届けて、現状把握の共有を図っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議において職員の意見を聞く時間を設けています。また発言が出来ない職員に対しては、個別で話しかけています。	「こういった声掛けはどうなのでしょう？」と、改善指摘の発言が率直にでてくることに違和感がないほど、お互いを信頼しあう土壌が培われています。また随時OJTでのロールプレイングや疑似体験を通じた実証があることから、「即改善→標準化」の仕組みが定着しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し職員の状況を把握し、要望や意見を聞き働きやすい環境を作るように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議時の内部研修や外部研修に積極的に参加してもらおうとしています。外部研修で得た知識を他の職員に伝授してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域同業者との会議に積極的に参加しており、ネットワークづくりや意見交換をしてサービス向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や日頃の声掛けで、本人の困っていることを聞きだし要望に傾聴しそれにお答えしながら、安心していただける関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のが家族との面接において家族が困っていること、不安に思っていることについてお聞きし信頼関係を気づきように勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面談時に現在の生活状況をお聞きし、まず何が必要かを考え、必要であれば他のサービスの利用についても話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と一緒に家事をしたり、遊びを共にし、家族の一員のような関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に送っているホーム便りで本人の写真と共に普段の様子を伝えていきます。また状態に変化があった時は、その都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人には、いつでも面会に来ていただけるようお願いしています。また家族との外出や外泊もして頂いています。	面会時間に定めはなく、19時頃仕事帰りに訪れる家族もいます。また「午前は予定が立て込んでいてゆっくりお話できないかも…」ということは予めアナウンスして滞留時間が増えるよう気遣ってもあります。新聞は親しみある「静岡」のほかに、利用者の要望に応じて「毎日」もとっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクリエーションで、皆様に集まっていたいただき行動することによりお互いのコミュニケーションが取れるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や思いをくみ取るように努力しています。		「ひもときシート」を導入しての1年半の間に個々の特性を見つめることが職員に沁み、掘り下げたのアセスメントは「これやったら困った症状がなくなった」との喜びの声に結ばれています。フロアでは職員の動きを目で追う利用者もいて、熱意ある介護を受けていることが伝わります。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様と話しながら、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の毎日の状態を観察して、心理状態、有する能力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者ごとに担当者がおり朝夕の申し送りでの情報を共有しています。その情報を日々の介護計画の見直しに役立てています。	各ユニットに計画作成担当者がおり、内1名は非常勤で介護支援専門員として配置され、月例会の会議とは別にカンファレンスと担当者会議の時間を設けています。「妹と毎日散歩～」が組まれた介護計画書も視認し、具体的に協議されていることを書面で確認しました。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、毎日きろくにのこしており、朝夕申し送りでの情報の共有をしています。その情報をもとに日々の介護や介護計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合ったサービスを行うように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かし、地域の一員として活動できるような行事への参加を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週に1回あり、その他個人受診には家族が付き添っていただいています。その際口頭か手紙で伝えています。	2名を除き、週2回訪問診療に訪れる協力医に変更しています。従来のかかりつけ医や専門医への通院は原則家族にお願いしていますが、変調が激しいときや説明が大変な状況、また身体状態が落ち介護タクシーを利用しても難しいとなれば、事業所で代わっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。必要に応じては、家族に受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用様が入院した際は、病院関係者から情報を頂いたり相談させて頂いています。退院の際は、情報を頂き施設の生活に早く戻れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	数年ご家族の希望で看取りが増えていきます。ご家族・訪問看護師・医師と相談しご家族やご利用様が納得がいくまで、話し合い方針を決め介護者・看護師の連携を取りながら支援しています。	現管理者が看取りに関わる研修会に出席した内容を所内勉強会に落とし込み、実際取組んでのカンファレンスの積み重ねがあり、職員の知識や経験も豊かになっています。毎日の健康管理に携わる協力医、訪問看護事業所の協力も得て、本年も4名のお見送りをおこなっています。	泣いてしまったり、慌ててしまった当初の様子が嘘のように、「慣れてしまうのは恐いので研修会に行って研鑽したい〜」との職員希望もありますので、外部研修への参加は年次計画の中にいれていくことを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用様の急変や事故発生時などは、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回行っている。地域の方々にもご協力をお願いしています。	事業所の訓練には近所からの参加もあり、「助けて〜と叫べば跳んでくるよ」「通りかかった人にお願ひ！って預けていいよ」と地域からありがたい言葉ももらっています。建物のオーナーにも「いざとなったら同居の高齢者を受入れることも…」と伝えてあり、ローリングストックも含み、無洗米や飲料水、ソフト食などの備蓄があります。	飲料水が現在3日分のため、1週間分を目指し備蓄庫の検討も含み前進があることを期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者のプライドやプライバシーを損ねることのないような声掛けや対応を指導しています。	個人情報保護、コンプライアンスの研修が年1回ずつあるほか、全社的に法令遵守が徹底されていることは各種書面から伝わります。セルフチェックシート、テスト式のチェック表も実施しており、結果が水準に満たないと居残りもあり、職員は身を以てその重みを受けとめています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人の希望を聴いたり選べる声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにあった暮らしができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方には、選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえなど、出来る事をしていただいています。職員と同じテーブルで食事をお話をしながら召し上がっていただいています。後片付けもできる方に、お願いしています。	「早く食べてしまうのはこの人の生活歴から～」という説明があることに安心感が滲みます。本部監査では「食材費に徹しているか」の指摘があり「(使うべき経費は)使ってください」と、厚労省指導に準じた確認がおこなわれ、主菜、副菜2品、汁物、デザートと質、量ともに豊かです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形状などご利用者様にあった食事を提供しています。食事量・水分量は、毎日記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っています。ひとりひとりの状態を、把握しながら支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、ひとりひとりの排泄時間の把握をトイレ誘導を行っています。	夜間帯の排泄量や日中のトイレ回数の記録から布パンに変更した例もあります。「トイレで座ってもらったらいけるんじゃないか～」と向上への意識を持った発言もでていてチャレンジ旺盛なケースもありますが、ポータブルトイレも使っており、無理にならない手前で留めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧の運動や歩行練習や散歩を行い、食物繊維の豊富な食事提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、声かけをして入浴していただいています。気が乗らな方には、無理強いせず少し時間を置いて再度声かけをしダメならば次の日に入浴していただいています。	2日おきを目安にしていますが、つい最近まで毎日入浴という人もいました。「個々に湯を入れ替えなさい」との本部指導を遵守し、薔薇の香り等様々な浴剤を使用しています。「瀬戸の花嫁」「かいがら節」と定番曲が流れてくると、誰が「いい気持ち」になっているかがわかります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣を大切にしています。就寝時間は21時なのでその間居室にてTVをご覧になったり穏やかに過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴っており職員がいつでも見ることができ服薬も確実にできるように利用者ごと曜日や時間を仕分けし確実に服薬できるように職員が4名で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリを付けていただけるようにレクレーションを行っています。また外出レクやボランティアさんシニアサポートさんに来ていただき話し相手になっていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	一人一人その方に合わせた外出レクを心がけています。入所前に良く行っていた場所(デパートの催事場)など希望があればそちらを叶えて行けるように職員話し合い実行しています。隔週の日曜日には、ドライブに行っています。	日々の散歩や買い物ドライブのほかに、レク・企画、車輛管理の担当が決められ、アンケートをとっての外出と花見やぶどう狩り等の外出企画がほぼ月1回おこなわれています。回転寿司では食べ過ぎてしまうこともしばしばです。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金は預かっています。必要な物があればご家族に相談し許可をもらい買い物に付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次は原則行っていませんが、携帯電話をお持ちの方は何人はおります。ご利用者様がご家族に急用がある場合は、その旨ご家族に職員が連絡をしています。その代わりに手紙のやり取りをしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はご利用者様が過ごしやすいように心がけています。季節感が解るように飾り付に工夫しています。	加湿器によってフュージョンが充満していません。換気扇やカーテンのクリーニング、蛍光灯の交換、水やりを環境整備係がおこない、チェック表に基づき職員間で注意し合いもあって清潔です。レク・企画係は四季を通じて壁飾りを担当し、玄関には愛らしい雛人形も鎮座していました。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを配置しています。仲の良いご利用者様同士会話ができ、自分の好きな場所で過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ってきていただき過ごしやすいようにしていただいています。	桐箆箆や仏壇、テレビの持ち込みもありますが、大きなクローゼットが予め備わっているためか、どの部屋もスッキリ、整然としています。布団を自身でたたんで揃えたり、洋服をハンガーに掛けたりと、職員に勝るとも劣らずのきれいな利用者もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はご利用者様の危険がないようにバリアフリーにしてあります。ご利用者様の自立した生活が送れるように工夫しています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200908		
法人名	株式会社ユニマツ リタイヤメント コミュニティ		
事業所名	中野新田グループホームそよ風 (ゆとりユニット)		
所在地	静岡県駿河区中野新田254-5		
自己評価作成日	平成29年2月1日	評価結果市町村受理日	平成29年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhiw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kani=true&jiyosyoCd=2294200908-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成29年2月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業理念である。「利用者様にゆとりやすらぎを」を実行するため、なるべく時間にとらわれずゆったりと時間を過ごしていただいています。午前中の合同レクリエーションも定着し日替わりで、リズム体操・脳トレ・カラオケ・ゲーム・ボールを使った体操などで、楽しんで頂いています。また季節ごとの行事では、外出レクやボランティアさんによる企画、誕生会、遠足などを行い皆様で楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

春と秋に催される「そよ風文化祭」は、常日頃のレクリエーションのゴール設定ともなり、また家族会と併せての春の文化祭では「えーこんなこともできたんですかあ」と家族の感嘆や歓びを誘い、「できちゃったんだよ」と利用者本人の有用感と満面の笑顔が膨らむ相乗効果の高い行事として育まれています。本部監査が年1回あり、細かく書面チェックがあるほか、「一人ひとり風呂のお湯は入れ替えていますか」といった厚労省の意向に準じた確認が繰り返しおこなわれています。同様に、勤務表は常勤、専従等の印が満載で、加算及び人員配置基準をクリアしているかが一目でわかるようになっていてコンプライアンスへの取組み姿勢が秀逸です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念である「ご利用者様にゆとりとやすらぎを」で、法人理念は、高齢化社会での役割を自覚して健やかな人生を支えるです。管理者と職員は理念を共有し実践に繋げるように努力しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の回覧板をご近所に持っていき、また散歩に行くときにご近所の方に覚えていただけるように、話しかけやご挨拶をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議時に地域の方に認知症を知って頂こうと勉強会を開催しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、ご利用者様についての活動報告やサービスの実際をお話しさせていただき、地域の方々からの提案やご意見をサービス向上に生かさせていただいています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者様に直接連絡を取り解らないことなど教えていただいています。事業所の情報を伝えながら協力をお願いするようにしています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員に理解して貰える様に年に1から2回程研修を行っています。また身体拘束委員会も月に1度開催して、やむおえずなく身体拘束をしている方の廃止に向けて取り組んでいます。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・ユニットリーダー・虐待防止委員会の委員は虐待が無いように常に注意を払っています。また身体拘束と同じように研修を行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度について外部研修などで、学んでいます。個々の方については、必要ならば支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結・解約・改定の際はご利用者様のご家族に十分説明をし不安や疑問については、お答えし理解していただけるように、納得いくまでお話をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来たときには、話すように機会を設けています。また月に1度のホーム便りを送付しており、そこには、ご利用者様の様子を一人ずつ担当者が記入して伝えております。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のホーム会議において職員の意見を聞く時間を設けています。また発言が出来ない職員に対しては、個別で話しかけています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回面談を実施し職員の状況を把握し、要望や意見を聞き働きやすい環境を作るように努力しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム会議時の内部研修や外部研修に積極的に参加してもらおうとしています。外部研修で得た知識を他の職員に伝授してもらうようにしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、地域同業者との会議に積極的に参加しており、ネットワークづくりや意見交換をしてサービス向上に努めています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や日頃の声掛けで、本人の困っていることを聞きだし要望に傾聴しそれにお答えしながら、安心していただける関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のが家族との面接において家族が困っていること、不安に思っていることについてお聞きし信頼関係を気づきように勤めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の面談時に現在の生活状況をお聞きし、まず何が必要かを考え、必要であれば他のサービスの利用についても話をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人と一緒に家事をしたり、遊びを共にし、家族の一員のような関係を築けるようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族に送っているホーム便りで本人の写真と共に普段の様子を伝えています。また状態に変化があった時は、その都度電話でお伝えしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人には、いつでも面会に来ていただけるようお願いしています。また家族との外出や外泊もして頂いています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日レクリエーションで、皆様に集まっていたいただき行動することによりお互いのコミュニケーションが取れるように支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても必要に応じて相談支援に応じています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の希望や思いをくみ取るように努力しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様と話しながら、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境を把握するように努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人1人の毎日の状態を観察して、心理状態、有する能力等の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者ごとに担当者がおり朝夕の申し送りでの情報を共有しています。その情報を日々の介護計画の見直しに役立てています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は、毎日きろくにのこしており、朝夕申し送りでの情報の共有をしています。その情報をもとに日々の介護や介護計画に生かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人のニーズに合ったサービスを行うように努めている		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を生かし、地域の一員として活動できるような行事への参加を行っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の往診が週に1回あり、その他個人受診には家族が付き添っていただいています。その際口頭でテガミで伝えています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	肛門看護師が週に1度健康管理に来ており、その時に個々のご利用者様の普段の情報や気づきを相談している。必要に応じては、家族に受診をお願いしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院した際は、病院関係者から情報を頂いたり相談させて頂いています。退院の際は、情報を頂き施設の生活に早く戻れるようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	数年ご家族の希望で看取りが増えていきます。ご家族・訪問看護師・医師と相談しご家族やご利用者様が納得がいくまで、話し合い方針を決め介護者・看護師の連携を取りながら支援しています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ご利用者様の急変や事故発生時などは、マニュアルに沿って行うように指導している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に備えての避難訓練を年に2回行っている。地域の方々にもご協力をお願いしています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様のプライドやプライバシーを損ねることのないような声掛けや対応を指導しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活で本人の希望を聴いたり選べる声かけをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースにあった暮らしができるように支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で服を選べる方には、選んでいただいています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえなど、出来る事をさせていただきます。職員と同じテーブルで食事をしお話をしながら召し上がっていただいています。後片付けもできる方に、お願いしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や形状などご利用者様にあった食事を提供しています。食事量・水分量は、毎日記録しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後に行っています。ひとりひとりの状態を、把握しながら支援しています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけており、ひとりひとりの排泄時間の把握をトイレ誘導を行っています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腹圧の運動や歩行練習や散歩を行い、食物繊維の豊富な食事提供をしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前は、声かけをして入浴していただいています。気が乗らな方には、無理強いせず少し時間を置いて再度声かけをしダメならば次の日に入浴していただいています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ひとりひとりの生活習慣を大切にしています。就寝時間は21時なのでその間居室にてTVをご覧になったり穏やかに過ごされています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は個人ファイルに綴っており職員がいつでも見ることができ服薬も確実にできるように利用者ごと曜日や時間を仕分けし確実に服薬できるように職員が4名で確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活にメリハリを付けていただけるようにレクレーションを行っています。また外出レクやボランティアさんシニアサポートさんに来ていただき話し相手になっていただいております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人その方に合わせた外出レクを心がけています。入所前に良く行っていた場所(デパートの催事場)など希望があればそちらを叶えて行けるように職員話し合い実行しています。隔週の日曜日には、ドライブに行っています。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族よりお金は預かっています。必要な物があればご家族に相談し許可をもらい買い物に付き添っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次は原則行っていませんが、携帯電話をお持ちの方は何人おられます。ご利用者様がご家族に急用がある場合は、その旨ご家族に職員が連絡をしています。その代わりに手紙のやり取りをしていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間はご利用者様が過ごしやすいように心がけています。季節感が解るように飾り付に工夫しています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには、ソファを配置しています。仲の良いご利用者様同士会話ができて、自分の好きな場所で過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、使い慣れた家具を持ってきていただき過ごしやすいようにしていただいています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はご利用者様の危険がないようにバリアフリーにしてあります。ご利用者様の自立した生活が送れるように工夫しています。		